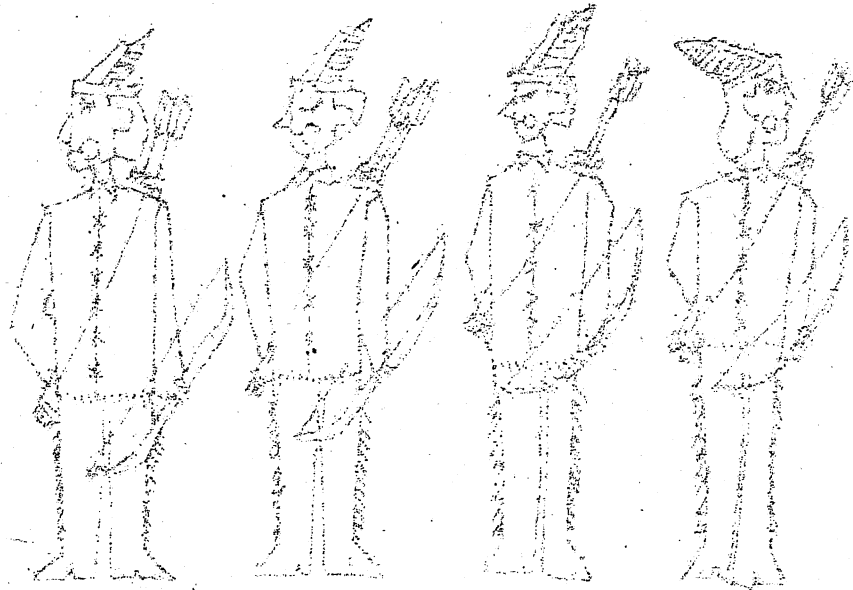


975

前期 山行報告書



信州大学山岳会

長野上田山岳部

附示:

本表註

一、奇數 70-71

國語	國語	102
英語	英語	102
日語	日語	102
國語	國語	102
英語	英語	102
日語	日語	102
國語	國語	102
英語	英語	102
日語	日語	102
國語	國語	102
英語	英語	102
日語	日語	102

二、偶數 70-71

國語	國語	102
英語	英語	102
日語	日語	102

三、複數

國語	國語	102
英語	英語	102
日語	日語	102

四、總數

國語	國語	102
英語	英語	102
日語	日語	102

Notes: double (double) a. 雙倍, 二倍
or. 雙倍, 二倍

二. 登攀 70ニ7ル

《屏風岩 緑ルート》 6/22 隊長 西川義満 (T.4.5), 登攀隊長 宅和正彦 (T.3.3)

6.21 ① 長野 = 松本 = 上高地 = 横尾

上高地にフクシ 今にも降り出しそうな空模様である。北屋根はすかり雲の中で見えない。横尾のヒナン小屋に泊まる。

6.22 ② 横尾 (4:30) - T4 屋根下 (6:10) - T4 (6:45) - 大テラス (7:45) - 雲後終3点

(12:40 ~ 13:10) - 最低点 (14:10) - 後沢 (16:15 ~ 16:50) - 上高地 = 長野

朝あきると雨が降っている。しかし雨でも登って帰る予定であったので、さうい食事を作り、薄明るくなりだしてから、カッパを着て小屋を出る。

岩小屋には ユハトガ一尾、社会人である3人組がとらから登攀を待ちわびている。倒木をわたり、一ルゼの押し出しに入る。北屋根の下で一時

雨がやむ。ラットワルトからフェースを10m程登って右の木の生えたバンドに縋り登攀準備をする。動作が鈍くなるのを恐れてカッパを脱ぐ。

登り出すとすぐ降りはじめ。30m x 15mの2Pでブッシュ帯に入ると昨夜T4あたりでヒバクしたと見えた人か下へ行く。経へ行くと言ったばかりだった。T4にフクシ 雨もちみちとした降りになりながら、

さぞく蒼緑ルートに取りつく。40m位は押し延ばしてから同時登攀で大テラスに登る。夏の上の鵜島翔のハンゲはさほど大きくないので、さくが落ち水たれ

ができています。降下下りも気もおこさない。9mのザイルを出してここからザイルザイルにする。これより先 青白ハンゲを抜けるまでは濡れおにきかた

だが、衣類はハンツを除去してすかり濡れている。手は濡かき冷たい。ハンゲ下のテラスまで20m 2Pのはずさ 途中にビレ点らしいスラフス

が2ヶ所ほどあり、手もとたまたま3Pになる。テラスへの最後のトラバースは、下を向いてキップの見えるボルトが2本あり、今にも抜けてしまつた。

ハンゲ基部のテラスは ほんのちよとした岩のくぼみにあるスペースに過ぎず、2人立つのがやっとである。上端のハンゲから落ちてくるさくは、このテラスからたゞ7-8m 後ろに冷たいカーテンをかけた。

あちかいていれりでもこの雨だと知るか知らずあてているのだらう、休むこともなく登り続けている。青白の前傾ハンゲは考えていたほど大きい

ものではない。その中に3ヶ所ハンゲがあって最後のものをこえると、垂直のボルトテラスにづく。ザイルは25m位しかのびていない。ヒゲ

を使ってリズムカルに登ると、ちよも困難ではない。アブミビレさしながら下を見ると、一ルゼの残雪まで何も無い。体をかりだしても

ラストの姿は見えない。小倉ルートのとられている所は2m以上の水干なトーフである。ボルトテラスで2人向いあって、タバコに火をつける。

捨てたタバコが空を舞って見えなくなるのを見とどけて、即 頭上のハンゲ目ざして登り出す。張り出しは60cm位の小さいものだが、先

文端にぶら下りながら左へ移って抜けるため、少しカガいむ。ハンゲ上は2-3歩フリーがある。スラフに出るといたる所にカーテン、

ボルトがあり、気が付いた時は直上ボルトに入っていた。このスラッグ・Dがアブミを
落とす、ポケットにあったテープ・アブミを使用する。ボルトテラスの1.が見ていると、
横断バンドのまだ向うに落ち、人間なら楽に死ぬるだろうと思ふ。このピンチ
35m位でバンドに着く。そこからさらに8mボルトに導くと右へ上ると、肺
翔と同じブッシュ帯に入ることができた。150mほどザイルを引きおいて行くと、
雲稜ルートの終る点に出て、登攀具をしよう。何はともあれ無事終了を喜んで、
カッパを着る。バニツまでズリズリして、靴の中は足が泳いでいる。体力的
にはそれ程疲れていない。歩き出すと調子が出て、徳沢まで3時間で下
る事ができた。徳沢で小屋のイヌに腰をおろして3.と思えば、横尾のヒナン
小屋を出てはじめて腰をおろせた。最終バスにおくじ、ブラブラ上高地ま
で歩く。上高地では車もなくボケとしていた。17シーガー台の上へ行く。1人
1500円で松本に下り、その日のうちに下宿に帰り、フロントで寝る事ができた。
これはやっぱりラッキーな山行だったと言わなければならない。

記 西川

《屏風岩ルンゼ》 7/31 西川義満(T.4.5) 宅和正彦(T.3.3)

東壁ルンゼにそなえて、トレーニングのつもりでトレスする。

7.31 ① S.T(3:50) — 取付(7:10~7:40) — バックバンド(8:40) — 稜線(終点 11:45)
— 徳沢(3:00) — S.T(5:10)

朝暗いうちにS.Tを出る。取付は谷芯の左のテラス。左のフェースから右へ
谷芯の方へ登攀開始。(昨年と旧おぼれているだけなのに雪が豊富でベル
シルトはかるく手たいて岩に物くれた。) 4Pでバックバンドに到る。
ここで瞬き下ろしている大きな落石があり、あわてて先を急ぐ。私ニー
と主体とした核心部を3Pで緩傾斜帯に産する。この間大きな
落石2回。岩には落石がつけた傷がいたる所があり、身を隠す
場所は無。岩の表面には粉状に落ちた砂が、残っていてザリザ
リ。(落石の置きみかけ)

緩傾斜帯をスタート 4Pとコンテで白いピナクル左のルンゼに入り、
最後の壁を30m登って稜線に飛びたす。北屋根最低コルから
徳沢に下り、S.T.に帰る。

なお、落石の原因は緩傾斜帯に小さな残雪があり、その雪がとけ
てからたまっている石が自然発生して落石となっていた。

記 西川 and 宅和

《中又白谷へ右岩稜》 8/1 室和正彦 (T.3.3) 山本章 (E.1.2)

8.1 〇 S.T (5:15) - 猿沢 (6:30) - F1下 (7:30) - 又白池 (11:00) - 右岩稜取付 (13:00) - 前木 (16:00) - 岳沢 (18:00) - S.T (19:30)

朝ゆかり食事をとり出発する。猿沢では Tシャツ、Tシャツ etc をみらう。世の中には、裕福な人もあるものだ。F1は右岸を高巻く。滝の落ち口少し上にアップダウンで下る。F2左岸をへつり、F3は左岸の4Mを一玉空身で登り、荷物を上り上げる。今鬼えは正面をショルダで登れば良かった。F4、F7は簡単に行き、F8は左岸のルンゼより手く。中又白は研究不足であり、これがF8とは思わぬ容易に足った。ゆるいストラップを流れにまわって又白池に出る。暑くて死にまわって水がぶくぶくし、知らないテントキハクよりたばこをもらいながら一服。池で1時間ほどカサをきいて休む。バネバネで右岩稜取付へ向う。沢上部の水場で右岩稜へ向うルートに出発。たばこをもらい先行させていただく。右岩稜核心部の凹角の上は、この前とかわかっているようにルートと手かえる。アグミで朋鳥翔と百川の懸に出る。このルートでAフェースと登り前木に着き、ザイルをよく。後は、おたからたばこを求めて下る。

記 室和

《屏風岩東稜》 8/3 古川道裕 (T.3.4) 川瀬亨 (T.3.8)

8.3 ① S.T - ルンゼ押出 (10:00) - T2 (12:00) - 取付 (14:00) - 終了 (15:00)
猿沢 (20:00) - S.T

T2からの小ハンクで先行パーティのTOPが落ち、T2で休んでいた。ザイルがまだ、^{壁に}ガガ。たまたまなので、先行Pが行くのを行つ。

5M TOPで朋鳥翔(中央壁)へトラバースしようとするが、滑き石が多く、取付のいろいろなトラバースなので途中から引き返し、東稜を登る事になる。(本当の朋鳥翔へのルートはもう少し下る)。つまりT2から小ハンクをへたてがら、すぐ右へ行く様である。我々は、いたれ、トラバースまで直上してからトラバースした。))

4P目に先行パーティに追いつきしばらく待った後、先に行かせてもらう。

7Pにはたいした事はなく、人工はアグミの線器にちょうど良い位。ルートファインディングは良く、バネ、ボルト等もレガリしている。

記 川也

《屏風岩 東壁心セ》 3/3 ~ 3/4 西川義満 (T.4.5) 宅和正彦 (T.3.3)

8.3 ① S.T - 横尾 続沢で 古MPと 合川 谷川を 飲み、真暗の 林道を 横尾へ。

8.4 ① 横尾 (5:45) - 取付 (7:00) - T3 (8:30) - 八の字ハコ下 (12:30) - 終了点 (13:45) - 続沢 (17:00) - S.T

T4 屋根の 取付より 岩壁に沿って 100m 程下った 所の 大きな 凹角を 20m 登った ところで アンサイルン して 西川TOPで 登攀開始。

1P目: 先に 凹角 左の スラッグを 登り 凹角上まで 40m

2P目: 凹角を 右に 回り込んで 人工、最後は 左の トラス スラスの 40m

3P目: 凹角の 半分 ほど 登り 壁を 登り

4P目: 左の トラス スラスの 又後 難い 凹角を 登り、 凹角上まで 登り トラス

5P目: 緩傾斜 帯を 70m まで 下る

6P目: 40m まで 登り 凹角へ 入り、 人工の トラで 登り、 凹角下を 右へ 降り、 スラスへ。 さらに 右へ 降り、 凹角を 回り込んで 登り、 トラス

7P目: 緩傾斜 帯を 70m まで 下り、 50m まで 人工の トラで 登り、 凹角を 10m ほど 登り、 トラス

8P目: 凹角 点まで 登り、 凹角 斜めに 左の 凹角に 入り、 人工の トラで 右の 凹角 に出て、 トラス

9P目: 左の トラス には 40m に入り 登り、 右壁 に出て 登り、 凹角上まで 登り、 トラス

10P目: 左に 下降 角時の 40m まで 登り、 凹角 上まで 登り、 凹角 上まで 登り、 トラス

11P目: 右上へ、 八の字ハコ下 まで 登り、 トラス

12P目: トラス 登り 後、 右斜上 して トラス 帯へ

13P目: トラス 帯を 降り、 凹角 上まで 登り、 トラス

14P目: トラス 帯を 降り、 凹角 上まで 登り、 トラス

15P目: トラス 帯を 降り、 凹角 上まで 登り、 トラス

16P目: トラス 帯を 降り、 凹角 上まで 登り、 トラス

17P目: トラス 帯を 降り、 凹角 上まで 登り、 トラス

18P目: トラス 帯を 降り、 凹角 上まで 登り、 トラス

19P目: トラス 帯を 降り、 凹角 上まで 登り、 トラス

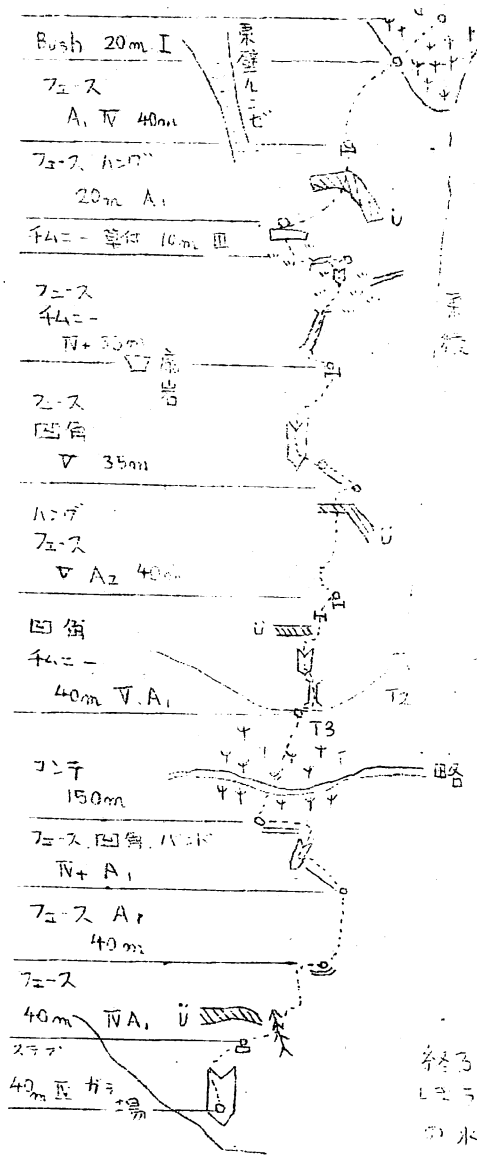
20P目: トラス 帯を 降り、 凹角 上まで 登り、 トラス

21P目: トラス 帯を 降り、 凹角 上まで 登り、 トラス

22P目: トラス 帯を 降り、 凹角 上まで 登り、 トラス

23P目: トラス 帯を 降り、 凹角 上まで 登り、 トラス

24P目: トラス 帯を 降り、 凹角 上まで 登り、 トラス



終了後 ガレを 解いて、 登攀具を ガレに ばらばらと 出す。(取付で Tガ水筒の水を 空にしたため。) ●は 続く

● 終了点から最後コルまで1時間、その後泳ぎまで2時間。サマ天には明る
い中に帰る事ができた。

岸辺岩ではぬすらしいフリーの多ルートである。そのためには他のルート
にいくつか困難である。このルートだと思いました。

記 西川

下部は木目の数が多く、急な登りだが、上部は木目、木目からの打ち込み
も少なく、120度前後の角度からフリーの多いルートである。この困難に突いた。
90度の急付けは、はがれ崖の上で傾きが及ばぬように、長くておもしろ
いルートだと思われた。

記 室和

《中又白谷へ松高》 8/4～8/5 秋田敬典(E.4.7) 古川道裕(T.3.4)

8.4 ① S.T — 中又白谷取付 (8:30) — 又白の池 (16:30)

F1は右岩沿いに登り、F2は上に出る。F3は少し登ってこえ、
F4は左岩沿いに下る。

8.5 ② 又白の池 — 松高取付 (6:30) — 3.4.5 (8:30) — 前池 —
上高地 S.T (6:00)

松高取付に上る時、前池のF登り口まで二人で、お茶を急いで、左岩側
に到着した。

松高で、社会人足場、須貝足場、その順で、Aはかきおろす時
が有った。下山は、須貝Pまで下り、上高地で合流した。

記 西川

ここまでで、登攀70=70%。夏山の部は、終りする。次のA-Pからは、秋山
の部に入りする。お楽しみは、

編集をより

《明月山 草壁》 9/23 ~ 9/30

西川美満 (T4.5) 室和正彦 (T3.5) 篠井伸 (T2.5) 三浦正一 (T1.5)

9.28 ①-② 松本 ← 小達 → 下川峠 右岩稜 登攀

奥鐘入行 西川とEを合せて4人で松本を朝早く出発する。小達より探道をして開いた歩道 西壁下で復舊する。下壁はV字状の主筋が2本あり、取り付いては、新しい壁の間に付く。左岩稜の途中は下壁の筋が2本あり、取り付いては、新しい壁の下壁の筋の間に付く。快速な岩小全を登ったB.C.になる。下壁の筋の間を登ると、下壁の筋の間を登ると、左岩稜の途中に付く。

左岩稜 室和 山本R内

1PB: 4m IV 左壁で登り、登る所を取付く。リスと大上し、大筋が下を回り、下壁の筋の間を登ると、下壁の筋の間を登ると、左岩稜の途中に付く。

2PB: 5m 下壁 左壁の筋の間を登ると、下壁の筋の間を登ると、左岩稜の途中に付く。

3PB: 25m 下壁 リスと大上り、ホルト・ハーケスにしがかりをつける。

4PB: 50cm 下壁 リスと大上り、松本が下壁に付く。

5PB: 30cm 下壁 左壁の筋の間を登ると、下壁の筋の間を登ると、左岩稜の途中に付く。

10.17まで100%の岩登り。下壁の筋の間を登ると、下壁の筋の間を登ると、左岩稜の途中に付く。

10.18まで100%の岩登り。下壁の筋の間を登ると、下壁の筋の間を登ると、左岩稜の途中に付く。

西川 室和 山本 R内

9.29 ③-④ 室和 山本 R内 登攀 左壁の筋の間を登ると、下壁の筋の間を登ると、左岩稜の途中に付く。

9.30 ⑤ B.C. - 草壁のルート - B.C. - 小達 → 松本

昨日の草壁の筋の間を登ると、下壁の筋の間を登ると、左岩稜の途中に付く。

草壁のルート

1PB: 岩小屋上の筋の間を登ると、下壁の筋の間を登ると、左岩稜の途中に付く。

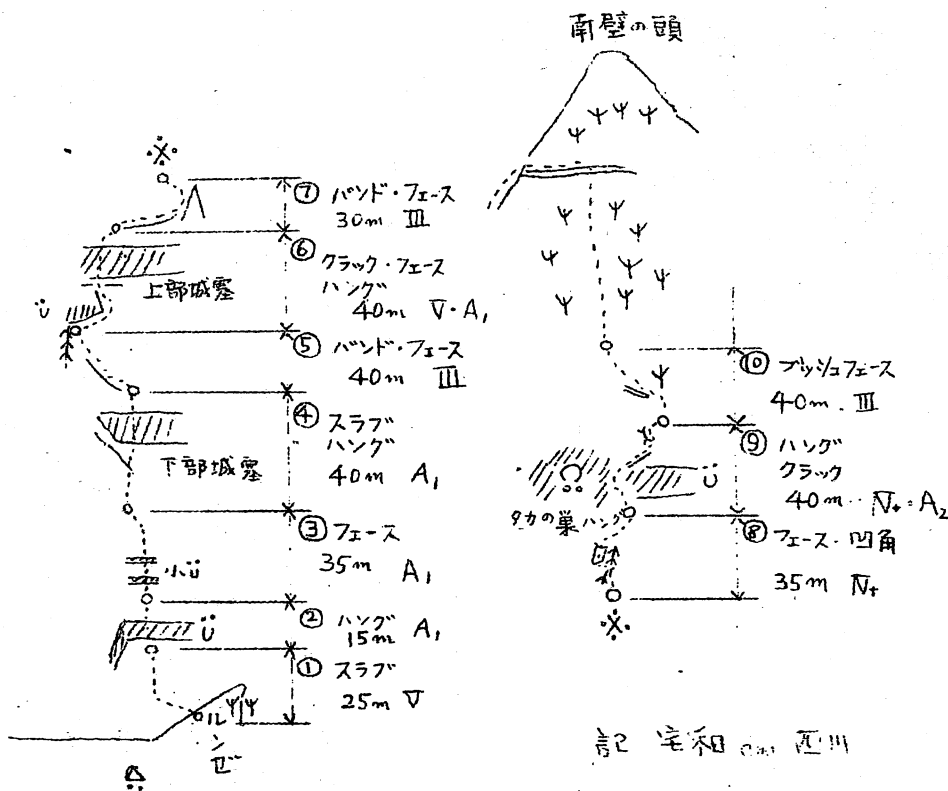
2PB: ホルト・ハーケスにしがかりをつける。

3PB: ホルト・ハーケスにしがかりをつける。

4PB: テラスより直上する。ホルト・ハーケスの間隔はせまりが、ハーケスがきつまく、1本は手でぬけた。下部 城塞は、ハーケスとすれば、よく越せる。高度はよく、安定したテラスでビルド。

- 5P目: ココはいくつかのパーティがルートを開通している所である。
直上せずバンドに沿って左上し、バンドの切れ下所からフェースを直上しハンク下でビレーする。
- 6P目: ハンク下を右に回り込み、クラックを直上しバンドに立つ。続く垂壁からやや前傾気味の上部城塞を越す。石灰岩が雨で浸食(?)されて尖っている為、アミ登攀の際膝が痛くて下まらん。
- 7P目: ルートは直上するらしいが右上するバンドをビヤクルまで行き、フェースを左に登る。勝算ありとみて、のんびり昼食をとる。
- 8P目: フェースより凹角に入りカンを左に回って凹角に登る。傾斜こそ弱いが見下目より困難である。
- 9P目: フェースから洞窟右の前傾ハンクを右に抜け、バンド状からクラックを直上。
- 10P目: 草付の緩傾斜帯を適当に左上40mで終了する。

取付から3人で6時間であつた。さらにブッシュを直上、南壁の頭の下を左にトラスし左岩稜を中央バンド付近迄下降し、西面に入って河原に下降する。尚日本の岩場にあるルート図は間違っていると思われるので我々のルートを簡単に書いておく。



《奥鐘西壁 敗退記》

期日：S50, 9, 30 ~ 10, 3

メンバー：西川義満(社長) 室和正彦(専務)

この山は我部では初の試みであったので少しく詳しく記しておきます。

9/30 快晴

明星山での日程を終えて、小滝駅で松本へ帰る山本と別れて、宅和と2人で魚津へ向う。途中糸魚川で食糧を買い出す。この日は宇奈月温泉まで行って、小さい公園でツェルトを張って寝る。

10/1 曇れのち曇り

前から楽しみにしていた「お猿の電車」に乗ってクヤキ平まで行くが、紅葉にはまだ早く、谷を通ってくる冷たい風が身にしみてけ。駅のホームの端からオミテ電所を通って川原に下り、水量は少なく水温もなまあ下下かく、靴はきのまま渡渉を3~4度、40分程で西壁の下に到着。西壁一番奥の対岸に岩小やがある。かなり大きく3~4人は泊れるが、あまりの汚さに入るのをためらう。さきからゴミ捨場といつたところ。すぐ横の巨岩の下にツェルトを張る。

砂に寝転んで壁を見る。大き過ぎて、ハンカが1つしかない。終了点となるエボソブッシュはそれと分るので、目をしていた下に移してルートを探すが、どうしても、取付く場所が分らない。仕方なく川原をうろついて取付点を求める。オミテハンカに見当をつけてその下のブッシュ帯に行けばルートを探すが見つからな。やつのことと、ツルツルのスラブにボルトを数本見出し、サイルをつけて、そこへ登ってみる。なかなか難しいが、25m程で、急願のブッシュの石端に入ることが出来た。そこから、さらにブッシュの中を左へ行けばオミテハンカ下迄は案に行けることを確かめて、1P目に回収したサイルを固定して川原に下降する。

10/2 曇りのち雨

ビバーク1回分の用意をして、6時に宅和トツプで登り出す。(簡単なルート図を付けてあるので参照されたし)

1P: 出張った岩との凹角内クラックからスラブを右上4m、左上4mから直上しブッシュに入ってビレー。25m

2P: 背を没するブッシュの中を左上70m、凹角3m、再びブッシュ30mをゴソソで登る。

3P: 左側のハンカに沿って凹角を10m、右に出てブッシュ混じりの垂壁を直上、前傾のオミテハンカを越え微妙なスラブを5m延ばす。

4P: ビレ一点から右にフットホールドを拾って5mトラバース、凹状のスラブを左上し、ブッシュ混じりから再び右へ登り、冬の木と思われ新しいボルト2本でビレ。

5P: スラブを右上、ツルへの所でボルトを1本打って右へ下降気味のトラバース

6P: 階段状を5m右上、小さな足場を左へ5mトラバース、ブッシュの中(難しい)を直上しハンク下の小テラス。(8:30)

7P: オ2ハンクは奇数の張出し2mから尻2m(ボルトは古く、間隔は遠い)を越し、垂壁をフリーと人エでハンク下のスタンスへ。

8P: そのハンク下を右へ5mアブミトラバースし、垂直の浅い凹角を人エとフリーで直上、小スタンスでビレ。

9P: フェースを10m人エとフリーで直上、スラブを右斜上してブッシュの生えた大テラスへ。休もうとすると小雨が降り出し登攀続行。

10P: フェースを左斜上

11P: 右に回り込んでボルト連打のスラブを直上、ハンク下の小スタンスで木につかまってビレ。

さらに、ハンク下の木の生えたバンドを5m左上トラバースして、量1枚程度の安定したテラスに移動し休む。(11:45~12:15)

12P: オ3ハンクは垂壁から1.5mの尻、オ4ハンクは2mの尻、ハーケン悪い。抜けた所でビレ。

13P: 右へ微妙なトラバース5mの私の不テラスにビレ一点を移してからオ5ハンクにかかる。2mの尻の下にボルト3本、真中のボルトひもが切れて2m程墜落。空身になって、新しい3mmのひもをつけ、架越す。ハンクの外は雨が降っていて、すくなく濡れぬすす。ボルトが一列に打たれてあり、ハンモックが扱えばビバーク出来る。

14P: 冬に残置したボルトに下を直上するが作きづまり、下降してツルへのスラブを右へ8mトラバースし、凹角状を人エとフリーで左上、オ6ハンク下まで。

全身びしょ濡れのため、雨が激しくなる一方なので、ギアハハのハン帯を目前にして下降と決める。

● 下降の模範 アガサイレソ

1P: 上記14P目を真直下にビレ一点へ20m

2P: オ5ハンクを空中、振り子して私の不テラスへ15m

3P: 左へ5mトラバース後、オ4・オ3ハンクを空中30m、岩から7mぐらいは離れる。さらにスラブを10mで10P終了後のテラスへ。ここで、残食無食、サイル回収不可となる。仕方なく、オ3ハンク下のテラスへ登り直して、そこでビバーク。頭上が一連のオハンク帯である為、雨はすつとむこうで降っている。

10/2 雨

相変わらず雨がふっており、川原迄下降する^ミところ。宅和が下におりて、西川が空身でオ3・オ4ハンクを登り、ゲイルをセットし直す。雨で濡れて濡りの臭くなったゲイルで再度怖い空中ケンスイ。

4P: 目出たくゲイル回収出来、大テラスへ 20m

5P: 左下ヘルトを捜しながらウロへ振り子をしながら 8P 終了点の小スタンスへ 30m

6P: オ2ハンク上の小スタンスへ 25m

7P: 手下しても気持ち悪い空中ケンスイで一気に 5P 終了点のスタンスへ 40m

8P: 左下へ振られながらおろきにスラブを歩いて オ1ハンク上まで 40m

9P: 手下も怖い空中ケンスイでオ1ハンクをブッシュ帯まで 40m
ブッシュ帯を右端まで歩いて

10P: スラブを 25m で川原へ。ホッと一息

岩小ヤの種にツェルトを張って ひっくり返る。ボギーッ

10/3 曇りのち晴小間あり

雨のあがった曇り空の下を重くしたんだ気持ちをはきかきするようになってお晴る岩小ヤを後にする。

土曜日とあって、登ってくるお猿の電車には行楽客の団体がとても多い。

(括)

ルートについて我々の登った範囲で記すと。それだけでも 扇岩のどのルートよりも困難。岩はしっかりしている。ハンクはボルト間隔広く、ボルト・ハーケンに悪い物多し。ハンク以外の部分は殆んどがスラブを細かいフリーである。これは快適。とにかくスケールが大きく困難を壁下と感じました。容易な心構えでは取付いてはいけません。

今一度、心身の準備を万全にし行ってみたいと秀云あります。

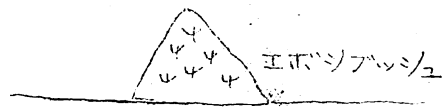
記 西川

師のためさんざん登攀して、自分の力を最大限に発揮できた。

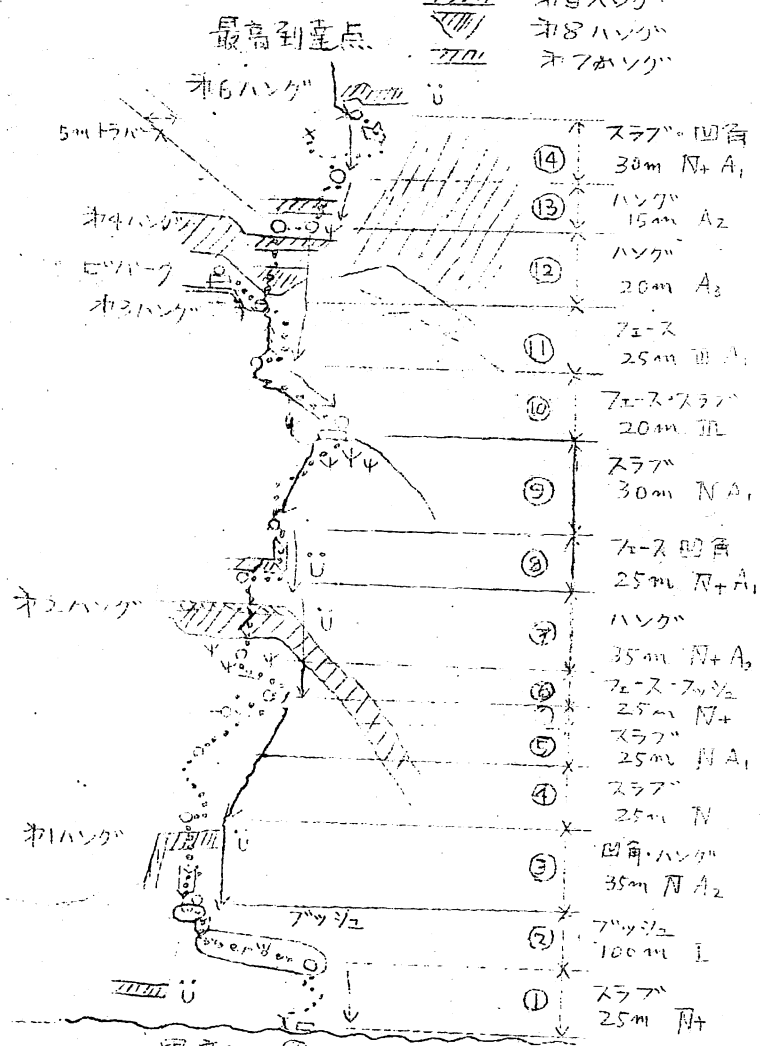
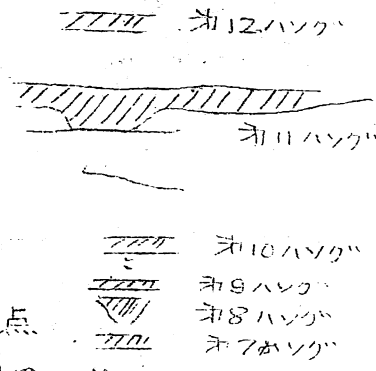
天候と大バーにめぐまれたらもう一度出掛けてみたい。しかしあの壁は二度とは下りたくない気分です。

記 宅和

関鐘山西壁
清水RCCルート



作図 西川
ボッチグレードは2人で決めたもの
少しく点がかかりと思っ見て下さい



《雨の斜岳》 10/2 ~ 10/5 古川道裕 (E.3.4) 土田章 (F.2.2) 丸山宇一 (E.4.1)

10.2 ㊦→㊧

朝一番のトリで黒四に着く。(8:00) 今にも降り出しそうな空模様である。内蔵助平に着いた時には、ビショぬれになる。ハシゴ段乗越まで登るのがめんどろになるが、先へ進まなればにはいがかず、真砂沢までドロドロの道を歩く。弓魚い雨の中でツェルトを広げ雨まりのある中で眠る。雨は一晩中止まらなかった。

10.3 ㊧

7時すぎ雨が小降りになったので、真砂沢の天場から長次郎の岩小屋まで行くことにする。この登りは楽しかった。やがと乾いた衣服がきょろまビショビショとなる。岩小屋着 11:00
この日は岩小屋の中で靴がし物をする。

10.4 ㊧→㊨→㊩

朝からやがと雨が降っていた。昼過ぎは少々の時間が見え、このわずかな時間を利用して、古川丸山で C.2-RCC を登り降りする。
また雨が降り始め、昨日も雨だったから下山する事にして、眠れず。

C.2-RCC 取付 12:30

終了 13:30

岩小屋着 15:00

10.5 ㊩

朝から鉄雨である。予定どおり下山することに。長次郎を降り、真砂沢でやがと休み、ハシゴ段を登り、途中で丸山の友人を伴って下山する。黒四ダムには観覧客がたくさんいた。

岩小屋 (7:00) — 真砂 (8:00) — ハシゴ段 (9:10) — 内蔵助平 (10:30) —
黒四ダム (12:30)

全山行を通して雨でした。何を穿かぬでもなし、毎日毎日雨の粒よりのためおれでした。

記 古川

II 逆行クワニワル

《打込谷 ~ 金木戸川》 8/8 ~ 8/12 宍和正彦 (T.3.3)
川瀬 亨 (T.3.3)

8.8 ① S.T (7:15) - 西穂山荘 (9:35) - 新穂高温泉 (12:00) - 穴毛谷弓折滝 (14:40) - ショワシ平手前の水場 (15:30)

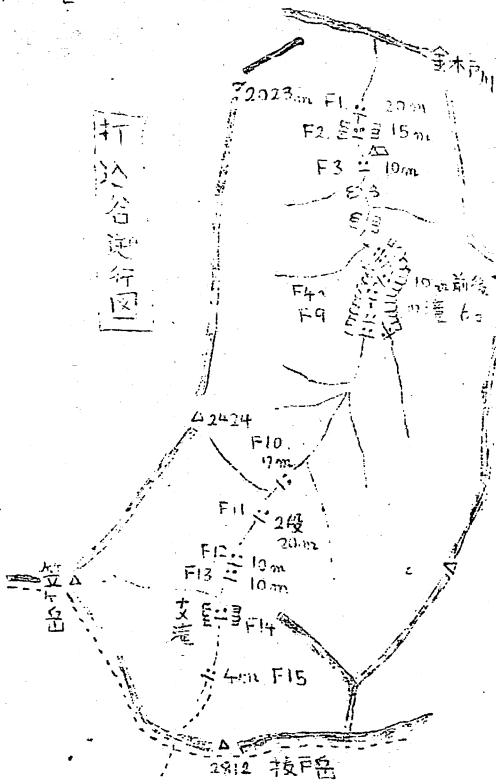
S.Tでみんな朝食をとり、ゆくり出発する。西穂山荘から新穂高温泉への道はロープウェイができて人が通らないうえにほとんど荒れている。新穂高温泉で朝食をとり、穴毛谷へはいる。この谷はいつまでか暗く、雪がぬい。3.4の沢の間あたりから雪が現れ出る。地下足袋では冷たい。荷物も軽く、杖遣に高度をかせぐ。弓折滝をこし、道が本谷からショワシ平へつながる所に到る。

8.9 ①

T.S (7:45) - 綾線 (8:45) - 二段の滝 (11:30) - 1720m点 (12:45) - 1500m点 (16:00)

すがすがしいショワシ平を歩き、綾線に出た所より打込谷へ下る。2360m付近に洞窟 (F15) 右岸を下る。しばらく河原を下ると、釜ヶ島からの小沢が合流する所に大滝 (F14) が現れる。ここはワラジをつける。すぐ10mの滝が2ヶ所あり、右岸を下る。

1920m付近に2段の滝 (F11)、左岸を高く下ると音が、滝は大きく、また高き。打込谷はBachが多く、比較的音も静い。F10が現れ、その後2時間位河原が続く。1600~1600m付近に10m前後の滝が6ヶ所現れる。打込谷の核心部である。兩岸壁はあまり発達してなく、Bachが多く、右岸左岸とわが方に高き。よこささう下りたが流れたが、河原から右方に高きか逆行できた。しばらく行くや、ゴルゴが2ヶ所現れる。F3を左岸から下り、河原にワルトを張る。

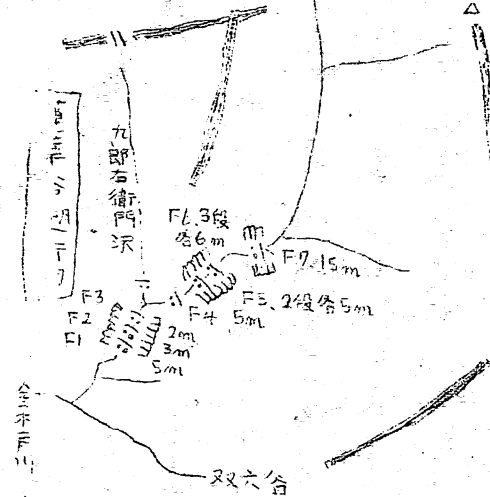


8.10 ① T.S (9:00) - 金木戸川 出合 (9:35) - 1400m付近 (10:30~12:00) - 1640m (14:45) - 双六谷手前 (15:30)

T.Sよりすぐ15mの滝 (F2) 左岸を下る。すぐ20mの滝 (F1) 左岸を高く。金木戸川の出合に出て、金木戸川を逆行する。しばらく巨岩の間を歩くや、1400m付近で野菜、ラーメンetcをひらう。少し早いので、

夕飯をして、ラーメンを作る。野菜は実によくかた。金木戸川は栗場、雞場もなく、高巻きもせず、簡単に行けた。双六谷手前の広い河原で、こらせいと、F1をきして、山の回りて、ワラジをつける。

11 ① T.S (7:50) — 双六谷集合 (8:00) — 太郎古徳門集合 (3:30) — 15m 滝
 の上 (10:00) — 2360m 点 (10:50) — 2800m 付近 (12:40 ~ 14:00) — T.S (15:00)
 双六谷集合より 蘆葦谷へ入る。F1, F2, F3 を右岸 左岸とへると六

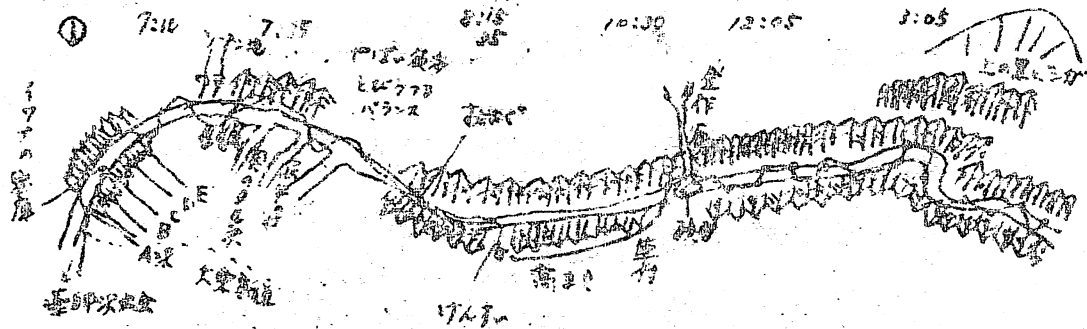


△三俣蓮華岳 即右徳門沢の集合となる。F4, F5, F6 を右岸を高巻く。F7 は正岩が壁であまり暗く、氷にぶきまは圧倒的である。右岸のツラのほうに凍った壁を 10m 直上し、左へ 15m トラバシ、ルンゼリ高巻く。こけりには荒れた河原を行くと、三俣蓮華岳と双六谷中間の Peak の肩に出る。この時間羊が来る。双六池より 100m (高度差) ほど下れた所に T.S とし、夕暮となる。

12 ① T.S (7:35) — 檜の肩 (10:15) — 横屋 (13:00) — S.T
 檜の肩まで 2P でひたまり登り、肩より横屋へは 2P でひたまり下る。地下足袋で走り下ると、雪が溜まるところに足が滑るが分った。足のいたがたこ。いたがたこ。横屋でビールを飲み、天気がよ。3日も早く下れた事に感謝する。

河原で観察 17才とつてみ80才とつた。

8/12 下.5 - 上の黒いガ - 金作谷出合 - 赤牛谷 - 北岩奇岩 - 薬師沢手前



朝早い徒歩は多め上がる。その下の下.5からさの川後砂と右岸に大障壁がある。設置された中にもう一つあり、上の黒いガにまちながのガあまのあけほきに信じられぬ。思ふより入るべき小さい。しかし徒歩をすれば、このあたり。ちとも問題なく済む。金作谷に到着し、出会うちゃんとし、アフリジはあじこにはちゃんと右岸を高く登る。単付を高くが高度感ありアソケレンしてはくぐらした。ボルト、ハアンの手打である岩のところにアソケレン河原にありた。このあたりは、ゴルジ帯で、黒部の秘境といったところだ。またここでも涼められた。徒歩しているうちに腰から胸にかけては足がとせないう程度だが、谷のふちなので。このあまのガという蓋は、イワガのいっほい。つらうと試みたが失敗。高天原からの道もいらして、なるとは問題なし。薬師沢出合手前の銅テンバでは、ついに岩亀一匹、アフリあげる。小川氏記念まつりだ。

8/13 下.5 - 赤城沢出合 - 五郎沢出合 - 三俣ランバ

赤城沢は流石の明か沢だ。左岸を高くが、本流はゴルジとわけて通行不能。今日は三俣までと決めて、河原で、お屋敷だ。

8/14 三俣 - 取穴 - 捨石 - 橋沢 - 上高地

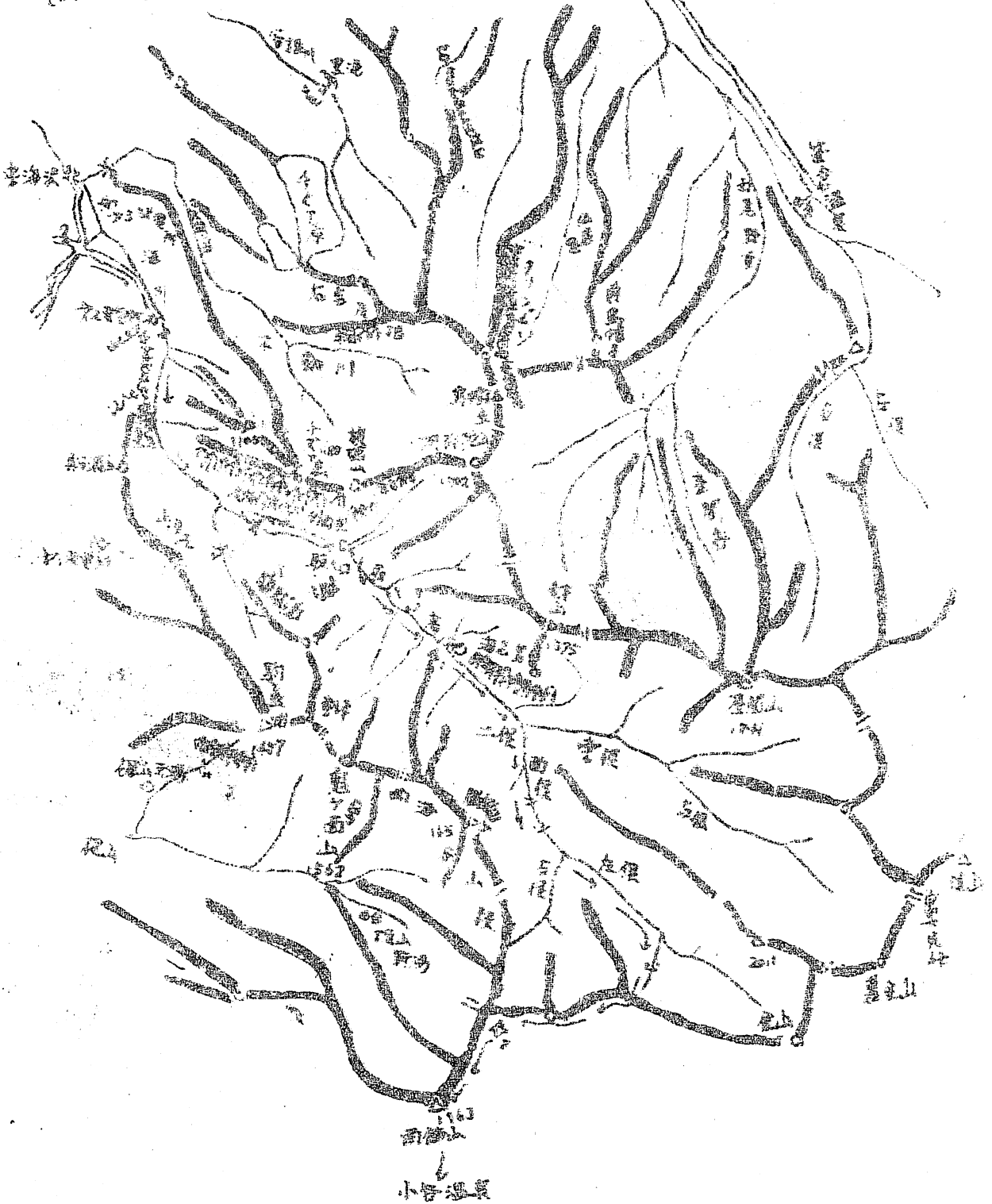
緩急路の地下で軽快に歩いて、(あまのガ)に注ぎながら下山。

海谷山塊 - 海川本谷遊行 西限左換

[期日] '75 10/6 ~ 10/8 (2泊3日)

[Member] L 福井, 瀬戸 (2名)

[海谷山塊志圖]



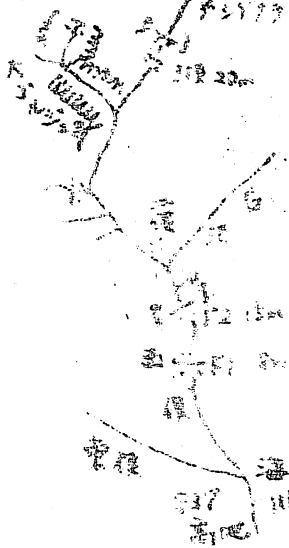
[記録]

10/6 松本 ← 糸原川 = 東海沢 ← 取入口 → 千代谷南面壁下 ← 徒渉点
 6:00 9:30, 9:50 10:30, 10:40 11:35, 11:50 1:00, 1:15 2:25, 2:35

取入口 — B5 糸原川 取入口より東海沢行くと2に東海沢まで下車 糸原川は急流。
 3:30, 3:45 4:00

取入口から東海沢まで直接行くと2に東海沢まで下車 糸原川は急流。
 取入口から東海沢まで直接行くと2に東海沢まで下車 糸原川は急流。
 取入口から東海沢まで直接行くと2に東海沢まで下車 糸原川は急流。
 取入口から東海沢まで直接行くと2に東海沢まで下車 糸原川は急流。
 取入口から東海沢まで直接行くと2に東海沢まで下車 糸原川は急流。

10/7 B5 — 二俣寺前 — F24前 — 二俣 — 取入口 ← 右岸の支流 3俣の滝
 7:20 9:20, 9:30 9:30, 9:40 10:40, 11:00 12:20, 12:30 2:20 ~ 2:30



糸原川尾根 — 西海谷止前分岐(オノマ)

取入口から東海沢まで直接行くと2に東海沢まで下車 糸原川は急流。
 取入口から東海沢まで直接行くと2に東海沢まで下車 糸原川は急流。
 取入口から東海沢まで直接行くと2に東海沢まで下車 糸原川は急流。
 取入口から東海沢まで直接行くと2に東海沢まで下車 糸原川は急流。
 取入口から東海沢まで直接行くと2に東海沢まで下車 糸原川は急流。

10/8 B5 — 南鍾山 — 二俣寺前 — 小谷温泉 — 南小谷田 松本
 6:00 7:20-10:00 12:00 12:20, 12:30 14:20 16:40

取入口から東海沢まで直接行くと2に東海沢まで下車 糸原川は急流。
 取入口から東海沢まで直接行くと2に東海沢まで下車 糸原川は急流。
 取入口から東海沢まで直接行くと2に東海沢まで下車 糸原川は急流。
 取入口から東海沢まで直接行くと2に東海沢まで下車 糸原川は急流。
 取入口から東海沢まで直接行くと2に東海沢まで下車 糸原川は急流。

取入口から東海沢まで直接行くと2に東海沢まで下車 糸原川は急流。
 取入口から東海沢まで直接行くと2に東海沢まで下車 糸原川は急流。
 取入口から東海沢まで直接行くと2に東海沢まで下車 糸原川は急流。
 取入口から東海沢まで直接行くと2に東海沢まで下車 糸原川は急流。
 取入口から東海沢まで直接行くと2に東海沢まで下車 糸原川は急流。

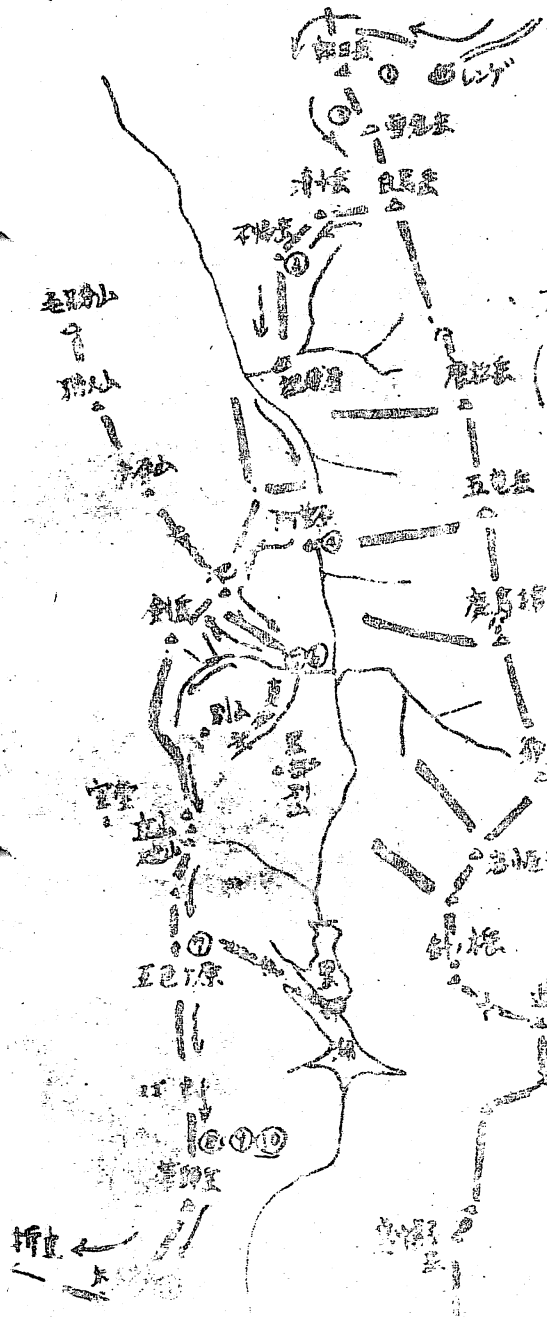
福中記

III 縦走

北アルプス (朝日岳 - 剣岳 - 薬師岳)

[期日] '75 7月20日 ~ 7月31日 (11泊12日)

[Member] CL 川瀬, SL 福中, 瀬戸, 中場, 丸山, 古川 (6名)



新人の思い出を飾る夏山縦走は今年だけ北アと舞台に行方おした。
中場事故の為途中下山と剣岳なくせられたが皇新と背負下歩くというあの縦走らしいは意味あえ冬山への一歩と行ったことと思う。

1日 7/20 萩原 - 早登 - レンゲ - モリノ橋 -
6:00 8:30 9:00 10:40 11:00 13:20 11:55
(4:00) 自高地沢伏衣 終日①
3:45 17:45

お初バスにゆらんでレンゲ温泉まで、とうとう縦走の
お初ポイントに入ら。初日はやはり苦しい。

モリノ橋は厚手補修しているようだが、流石を強
うらやましい。はとこら。

2日 7/21 T.S - 五輪尾根 - 自高地 - 種神
4:45 5:00 6:30 7:35 9:50
45 45 45 8:00 9:00

(10:00) 朝日岳 - 小笠原 - 薬師
9:30 9:50 11:00
10:00

朝日岳は2400に近く峻険な山。標高2400
5000に行動終了。夕7時00に帰る。

3日 7/22 T.S - 白馬岳 - 白馬岳 - 清氷
4:30 7:00 10:30 13:00
55

(10:00) 白馬岳避難小屋
13:10 ①②③

長時間行動のため、バテバテ。3000m以上
5000m。雪質悪く足は軟弱なため、小屋が
できたというのに、あの3000m 白馬岳避難小屋
は積雪で崖切のようになって危険な状態に陥っていた。

4日 7/23 T.S - 祖原谷 - 走台谷 - 門前岳
5:15 10:30 14:10 18:30
(13:00)

5日 7/24 T.S - 阿曹原峠 - 仙人湯 - 仙人山城 - 真砂沢 (97%分)
 6:50 8:00 10:30 11:00 11:30 (9910m)

- ◎ 朝早くヒビ登り、殆ど中絶不調。仙人の雪渓では山頂に出ず、4時にたどり着いた真砂沢では降雪が多く、スタートも多く。しおたはく麓に一休亭まで来たが雪上に登る。

6日 7/25 T.S - 長次郎荘 - 剣岳 - 長次郎荘 - T.S (57%分)
 7:15 11:30 12:50 (5935m)

- ◎ ほとんどもスリッパ開放されて、スリッパで剣岳ヒストン。長次郎の雪渓でキックスリッパをブライヤード。

7日 7/26 T.S - 剣沢小屋 - 大釜山 - 澤上山 - 五雲ア索 (107%分)
 7:50 8:40 9:55 12:00 14:30 (9940m)

- ◎ ぶらぶら荷物と靴の重さを気にして、... Park まで進む。剣沢小屋では登山道で世話をなした登山者数人の地山氏と交す。大釜山ではすぐそばに教の、木をエサにする。お花君と談笑して、お花君が登山道に足踏の瓦を敷いてくれる。(剣沢山頂の雪渓やヒストンまで登山者、群れ)

8日 7/27 T.S - 大釜山 - 大釜山 - 間山寺前 - 間山寺前 (77%分)
 7:50 8:25 8:50 10:40 11:40 (6950m)

- ◎ 間山寺前で中嶋がヘルニアの痛みを起して「痛い痛い」と泣き叫ぶので倒れてしまう。間山寺前には近いかで一本足には設置されて、上級者が交たいて背負ってテントに収容する。中嶋は自作でトレンジャーの足がかり、とにかく寝静まると回復して回復を待つことにする。

9日 7/28 10日 7/29 沢渡

11日 7/30 T.S - 華師岳 - 華師岳山頂 (67%分)
 7:10 9:30 12:30 (5955m)

- ◎ 中嶋が早く大釜山から結構多量降雪になる。暫く華師を越え、いよいよ明日は登山非常に天気曇りで、流石に雨降る時は、雨降る5日に減ったものだ。

12日 7/31 T.S - 折立峠 - 有峰山 - 雪止 (37%分)
 7:10 8:45 9:30 11:30 (3200m)

- ◎ 折立峠のそばから雪道と空に降りたので背負った朝日を少しづつ下ろして下る。

戸隠岳 '93.5.24 ~ 5.25

(1) 6月 昭和 中島 集田

5月24日 (土) ①-② 長野 - 宝光社 (13:50) - P1 採取付 (13:30) - P1 P2 P3 (16:40)

P1 採取付は、乃と山頂からの山頂への。1500m付近から尾根が尾根に、新天(山)がある。岩壁より尾根がくま、両側は切れている。P1 P2 雪面上に歩くと足が、雪面に滑る。

5月25日 (日) ③-④ TS - 本院堂 (7:25) - 小市原 (9:25) - 不動 (11:25) - 戸隠牧場 (12:45) = 集田

P1 本院堂の朝は曇りが少なく歩きやすい、本院堂は、時雨、雨に降る。

Ⅳ. 岩場定着合宿

[期日] 950年 8月19日 ~ 8月27日

[メンバー] 各係

C.L 室和正彦 (Ⅱ) S.L 記録 川瀬亨 (Ⅱ)

装備 福井修 (Ⅱ) 食糧、会計 山本章 (Ⅱ)

土田章 (Ⅱ), 眞田俊晴 (Ⅱ), 中島岳志 (Ⅱ), 瀬戸由則 (Ⅱ)

丸山宇一 (Ⅱ), 西川義満 (Ⅱ), 古川直裕 (Ⅱ), 加賀瀬豊彦 (Ⅱ)

小川邦一 (Ⅱ)

D-2数字は部歴を載せず。

[合宿を終えて]

涸沢という騒がしい場所に B.C. まで来たせいもあるだろうが、今回の合宿は 全員 何のための合宿であるという意識に欠けていたと思う。最近 特に感じる事であるが 合宿に対して マネリ化していると思う。各係のリーダーは 例年と同じ Essen 計画 装備計画を立てているようだ。過去の資料は 参考にし、もっと研究し 進歩的な、画期的な計画を立ててほしいものである。

行動面においては、L会の具体的な打ち合せがほとんど行なわれなく C.L にまかせ、まじりであった。そのため 今回の様に C.L が途中入山しなければならぬ様な場合 まごつくのである。L会は強く反省しなくてはならない。

とにかく 各自 1つ1つの山行に 真剣に取り組み、研究し 計画を立ててもらいたい。

1年生に対しては、つれてもらっているという感じをうけた。グリスド、登山に関しても まだまだである。生活技術においては 人に言われて動くのではなく テキパキ とやるように。

2年生に対しては、1年の指導にもっと強いものがほしい。岩登りに関しては 各自 自分のががわがてきたようだ。これからは それを自分の求める方向にのばしてほしい。

3年生に対しては、マネリ化が目についた。指導 各係に責任をもってもらいたい。

室和正彦 記

[行動記録]

8月19日 ① 松本—上高地—横尾—酒沢

古川山を越え除く 11人 と 山下OB で かいをかけた道を 酒沢へ行く。酒沢 10:00
季節では パタ1年のキスリングを 山下OBに 譲ってもらう。

8月20日 ①~③ 山本入山。

・北穂東縦パーティ L. 宅和 西川 小川 丸山 中島

D・APと共に出発し、北穂沢で分れる。北穂小屋でお茶を 5:30に作り、渡谷
根を登攀する。水野クワは濡れておろいからしい。渡谷はガス、てあり視界は
ひどい。酒沢岳を経て 奥穂に登り、サイテンゴラドより B.Cへ。

・D・M北壁パーティ L. 川口 土田

D・M北壁は 2回目だが 今回もガスが濃く 4ムーの中は濡れていた。
(ルート)

1P目 Top 土田 4ムー 横心部 4ムーの中に入りすぎない様に
2P目 Top 川口
3P目 Top 土田

D・M中央縦。濃いガスに巻かれ 視界が悪い。3尾根を下るが は、きり
テラスがなく 引返す。

・北尾根パーティ L. 加賀瀬 福井 瀬戸 みの田

北尾根 最後 コルより 3.4 コルへ 2:00 加賀瀬 みの田、福井 瀬戸
10:00で 北壁 Aコースを登り 前穂 3.4のコルより B.Cへ。

加賀瀬 P. 取付 10:45 終了 12:50

福井 P. 取付 11:00 終了 13:00

8月21日

・北穂東縦パーティ L. 加賀瀬 土田 瀬戸 箕田

兼日は 同ルートを通り下山。東縦取付 7:05 終了 8:10
水野クワ取付 9:15 終了 9:50

・北尾根パーティ L. 川口 小川 丸山 中島

最後 コルより 3.4 コルへ。中島の牌が崩れ出したので 北尾根の前へ。
川口 丸山は 3.4コルより 3峰リッジへ。

3峰リッジ(加賀瀬記) Dコースを目前にして 快雷に巻き ほとんが付いた
時は Dコースが左にあった。し、たと思いたが もう引返す気になれず そのまま
3峰リッジの上部へ出る。(飯沼は 北壁へ行こうとした。)

○ L字洞穴、Dフエ田山 パーティ L. 宅和、山本

8.C (5:50) - 5.6コル (6:45) - L字駅付 (8:30) - L字終り (9:45) - 国出十駅付 (11:45) - 終り (13:35) - 前山 (14:10) - 8.C (15:50)

5.6コルに 4身を回して 川原を登り駅付へ。L字洞穴は 3P。
3.4コルを 軽て 右岩壁を登り 国出十に 登り行く。スラフ等が
3.5C - スラフ等は パーティが 多く見られ、川原に 登りしめる。洞穴の
の 岩壁は きれい、前山の コーヒーを 結構飲め、3.4コルは 8人。

○ 北条、新村ルート パーティ L. 西川、福井

L字洞穴 パーティと共に 5.6コルより 4身を回りに 川原を 登り駅付へ。
3.4コルより 8.C へ。

20日 紅葉 瀬は S.T へ 下山。

21日 ●

雨のため 遊覧。

22日 ●

紅葉見。下山 新山 元の Essen を 見ると、7時を 過ぎ 帰りに
音が 聞こえる。小川 舟山 下山。

24日 ① 中盤を 終り 全員で 滝谷へ。

○ 午前 の 部

P2777 尾根 L. 宅和、瀬戸 駅付 8:00 終り 10:30

1 尾根 L. 西川、箕田、
(5.6C) 福井、土田) 2777 尾根 登攀 駅付 8:45 終り 11:00

先行 尾根 があり 時間がかかる。

P2777 笑工大 L. 宅和、山本 駅付 8:30 終り 9:10

尾の 四角のみ あり。1P まで 終り。

全員 北條の 小屋に 集合した 後 次の Party で 登攀 する。

○ 午後 の 部

P2777 尾根 L. 山本、箕田 駅付 13:15 終り 15:45

P2777 早大 L. 宅和、福井 駅付 14:25 終り 16:35

ホールの 入り口 があり 快適な ルート である。

3尾根 秋後 L 瀬戸 瀬戸 取付 13:25 終了 16:20

全尾根を共にC沢を下る。先鋒瀬戸をC沢にあり、落石に注意し
わきの降りる。赤いゲートは西沢が物(別) 3尾根の頂上から下り、
甲斐は下の方ほどにある4尾根にまで登るが西沢は止まりに突いた。

日記

P2 3尾根 L 西川 土田 取付 12:15 終了 15:00

早大P2を共にB沢を下る。一尾根と3尾根の間の間が出過ぎ
あたりで取付く。下部尾根斜率 40m 3Pで早大P2取付点下の
右下のテラスに到着。岩は小さく、他尾根からの落石が原因、下部は
危険な要素なし。

4PB : 右斜上のテラス 30m (W)

5PB : 凹角 35m (T)

6PB : 凹角 左へ 10m (H)

7PB : 凹角のテラス 40m (F)

この2尾根は出たので最後の1Pは右の尾根上をP2へ。

女提の南端で、宅和P、西川P、土田Pが集合地帯で、1尾根を共にB沢
下りて、川中Pまで、全員で下る。

古川 入山 赤いゲートの裏入れあり。

8月25日

雪上訓練 L 宅和 瀬戸 箕田 瀬戸 中島

B沢の5.6コルへ 本谷へ下り、川中P、下沢Pの雪上訓練。
A沢を登り前末を経て3.4コルへ。

北条 新村 P-7 L 川中 土田 取付 9:45 終了 10:40

B沢の5.6コルへ。本峰越えC沢を下降(土田30m位スリガ)
先行P-7がありTで止まり待つ。3P目の112mが体勢が少し
悪く乗り越しにくい。3.4コルで宅和Pを谷流。その後、
宅和、陽井と右岩稜へ。川中、中島でC.B.A.テラスへ。他の者は

西川Pがくさのさつま共にB.Cへ。

C.B.A. P-7 L 川中 中島 取付 13:30 終了 15:45

右岩稜取付付近よりC faceを左へ、B faceでアセリン 中央の
凹角を登る。112mを若くは入乗越すなど、ホールド スワースは火
災かたで付くものに慣れる。

○右岩稜 10-71 L.宅和 福井 取付 13:00 ~ 前ホ 15:25
 3P目 核心部 2. 右岩稜 3度目にしえた Topで 完全71にて 登れた。
 A71-ス下で 須貝Pと合す。前ホで川せPと 落ち合ひ 共に 3.4コル
 下る。

○D71-ス 信大ルト L. 西川 古川 取付 9:20 ~ 前ホ 12:40

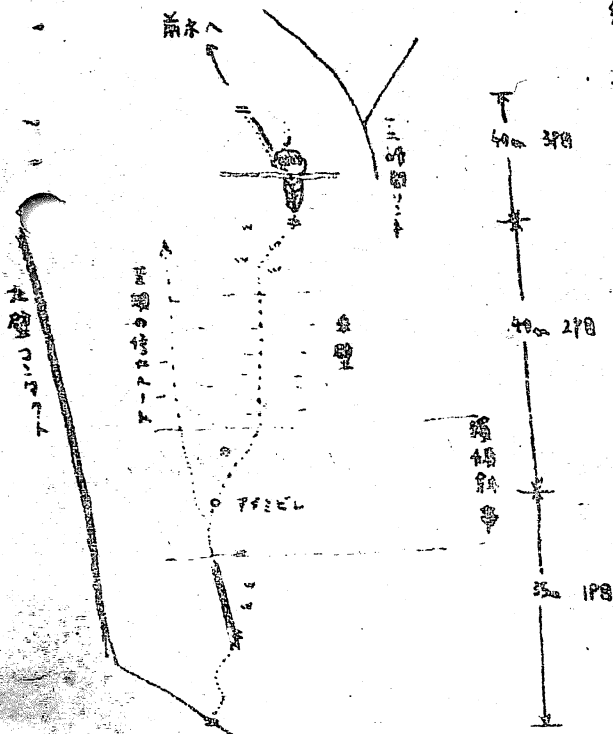
1PB: 取付より 右止 (約10m) 直上 (約20m) で
 須貝斜面に出 マジビレ

2PB: 直上する ボルト通打のルートを登る。
 左側 5m 位に 正確の信大ルトが見える。
 (5.4mのルートを) 約20m 位で 壁壁を
 かけ 草付まで出る。

3PB: 簡易な71-1のルートを かけると 前方に
 1.2峰間の平が見え 出口が 残っている
 事が 明確になった。

前ホのピクで 加賀瀬 と合ひ 共に
 3.4コルを 登り 2.2.2.2 1年と 共に
 下る。

記 古川



26日 ①

○横尾本谷 10-71 L. 土田 瀬戸 みの田
 B.Cより 下り 横尾本谷へ 入り 南岳小屋へ (11:40) キレットより
 北嶽小屋 (13:00) B.Cへ。

○古川 中島 10-71 滝谷-尾根 (左ルト) 取付 (8:40) 終了 (11:40)
 初後 C沢を 下り

滝谷 四尾根 取付 (13:05) 終了 (16:25)

○加賀瀬 山本 10-71
 古川Pと 共に B沢を 下る。

P271-2ヶ早大 取付 9:00 終了 10:10

初後 C沢を 下る。

ダイヤモンド ~~コース~~ フェース (清水) 取付 11:15 終了 13:15

2P目の本庄又合流する手前のⅢ級の所は 5.10に感じた。
これはルート図のまぢがいでほろいかるが。 記 山本

ドム西壁 取付 14:20 終了 15:50

西川 宝和 パーティ

ダイヤモンド フェース (本庄) 取付 9:00 終了 12:00

1P目: まじり 4~5mの壁より 11:12 2本でバングを越え 47.7
21 バンドへ出てピシ。 20m WA₁

2P目: フェース右のクリックより かの右に直上。 11:42 3本付5
4本回収。 35m WA₁

3P目: 凹角をボルトで右上。清水からのバンドに出る。突如
凹角状のバンドを直上。 40m WA₁

4P目: フェースより直上。 10m Ⅲ

中央稜下で吉田Pに出会う。

ドム西壁 取付 12:30 終了 14:00

ドムの頭で 加賀源Pと接し共に B.Cへ下る。

川せ 福井 パーティ

屏風岩雲根会ルート 取付 9:40 終了 2:50

B.C (6:00) - 川せ押出 (7:45) - T₄ (9:00) - B.C (5:00)

ボルト 11-42 係りがかりしているが、ボルトのクリックの代わりに 3mm のシリコン
を通り易いものが半数以上ある。フェースも大きく 確保性能良。
他パーティがいなければ、景色も良く 快適なルートである。

月27日 ①

他パーティから Essen を集めてきたためか 下山時に米が 10kg 以上 余り
ました。 S.T に 西川 加賀源 山本を残し 下山する。